

平成 28 年度 自己評価結果報告書

旭学園第二幼稚園

1. 本園の教育目標

人が生まれながらに持っている善意を目覚めさせ、幼児の間に全人格の基礎を無意識の中に個性に応じて作り出すのが本園の目的であり、理想である。

また、教育方針としては、幼児心理に基づいて、生活経験豊富で健康明朗な幼児の育成に努めることを主眼としている。

- 集団生活の中で育つ社会性
- たくましい体と精神力
- 考える力と創造力を豊かに
- 楽しい行事を通じて経験を豊かに

2. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検・評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

3. 評価項目と取組状況

- | |
|----------------------|
| A: 十分達成されている |
| B: 達成されている |
| C: 取組まれているが、成果が十分でない |
| D: 取組みが不十分である |

自己評価項目	評価	取組み状況
[教育方針・目標] 園の教育方針や目標について、教職員の間で話し合い、理解を深めている	B	・職員会議・学年会議を定期的に行っている。
[指導計画の作成と評価] 日々の指導計画を作成し、終礼などで話し合い、評価反省をして次の保育に生かしている。	B	・学年ごとのカリキュラム会議の実施 ・クラスごとの指導計画の作成 ・会議の実施
[教職員同士の協力・連携] 園児のことについて教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	B	・園児のことで気になることがあれば教職員間で話し合っている。
[園で重点的に進めている保育の充実] 園で進めている幼児漢字教育・ピアジェ教材の保育・体操などの保育を継続的に行い、充実させている。	A	・カリキュラムに従い、毎月着実に実践指導している。 ・毎日、漢字絵本・漢字カードを読みピアジェ教材も行っている。体操も専任講師で行っている。

自己評価項目	評価	取り組み状況
[危険防止の意識・安全管理体制の整備] 危険防止の意識を常に持つ。また緊急時の対応手順について、全教職員が共通理解をもち対応できる体制にある。	B	・年に数回、火災を想定した避難訓練を実施 ・門番の配置 ・来園時の保護者カードの提示 ・地震・津波の避難訓練の実施
[保護者との協力・連携] 保育参観や懇談会などを開き、子供の成長や保育、家庭の様子などの意見交換をしている。	B	・年3回の保育参観、年1回のクラス懇談会、個人懇談を行っている。また、日々の様子で気になったことは電話連絡をしている。
[園児一人一人の習得度に応じた指導の充実] 園児一人一人の習得度や特性を見極め、個別指導などで習得度を高めている。	B	個別指導も行い、その園児に合わせた声掛け、指導を行っている。
[研修への取り組み] 教職員の育成の場として、園内、園外研修が計画的に実施されている。	C	研究保育など園内研修を定期的に行っている。ただ、園外研修が不十分であった。
[食育の充実] 食育に取り組み、園児の食生活や食物に対する知識を充実させている。	A	・園外保育でのみかん狩り、園内でのいも堀り、餅つきを行っている。 ・食育講義の実施

4. 総合的な評価結果

結果	理由
B	3. の結果を平均化した。様々な取組を増やし、達成された項目も増えた。しかしながら十分達成されているとは言い切れず、さらなる向上が求められる。今後は意見交換や研修の場をさらに増やし、より良い保育を目指す。

5. 今後取り組むべき課題

- 指導計画について、もっと短い期間での評価反省をしてより良い保育につなげていく。
- 教職員の育成の場として、園内のみならず園外の研修を計画的に実施する。
学んだ内容をレポート報告などを活用して教職員間で情報共有する。
- 様々な状況を想定した避難訓練を行う。防犯体制も強化する。
- 応急処置の体制を整える。

- 評価項目設定について・・・適切である。
- 取り組み状況について・・・おおむね適切である。しかし食育については、もっと充実させて欲しい。違う観点からの食育に期待したい。また、この取組状況を踏まえて「何ができていなかった」のか、という分析・共有・改善のための教職員会議が必要である。
- 評価結果について……………評価の通り、意見交換の場をたくさん増やし、現場の意見も聞き、今後に活かしてほしい。
- 今後の課題設定について・・・食育のさらなる充実。体験だけではなく、子ども達一人一人の口にまで繋がる食育を期待したい。他には、行事の充実。園での様子をホームページでもっと配信してほしい。近隣地域との関わりを深める取組など。